

世の中の出来事

税関に関する出来事

日・シンガポール間で初めてのEPAが発効 WTOドーハ・ラウンド交渉開始(→P.56)	2002 平成14年 爆発物探知犬導入(→P.26)
日シンガポールEPA署名式 (出典:首相官邸ホームページ)	2003 平成15年 シングルウィンドウ(輸出入港海関連手続)供用開始(→P.52) 海上コンテナ安全対策(CS)開始
2005年日本国際博覧会 (愛知万博)開会(→P.87, P.118) 中部国際空港開港(→P.87)	2004 平成16年 税関研修所がWCO地域研修センターに認定(→P.103)
2005年日本国際博覧会 (愛知万博)開会(→P.87, P.118) 中部国際空港開港(→P.87)	2005 平成17年 輸出事後調査制度導入(→P.45) 児童ポルノ、爆発物、火薬類等を輸入禁制品に追加(→P.30) 加重算税導入(→P.44) 不正薬物・爆発物探知装置(TDS)導入(→P.29) 事前旅客情報システム(APIIS)導入
2005年日本国際博覧会 (愛知万博) (一般財団法人地球産業文化研究所提供)	2006 平成18年 特定輸出申告制度導入(→P.50, P.68)
米国防金融危機(リーマンショック)発生	2007 平成19年 税関ロゴマーク制定 特定保税承認者制度導入(→P.50) 特例輸入申告制度導入(→P.50)
御厨邦雄氏がWCO事務総局長に就任(→P.122)	2008 平成20年 認定製造者制度導入(→P.50)
アジアからは初となるWCO事務総局長に就任した御厨邦雄氏	2009 平成21年 シングルウィンドウ(府省共通ポータル)稼働(→P.52) 認定通関業者制度導入(→P.50) 特定保税運送者制度導入(→P.50)
東日本大震災発生(→P.112)	2010 平成22年 Sea・NACCSとAir・NACCSが統合
羽田空港再国際化(→P.83)	2011 平成23年 各種SNSを活用した情報発信を開始 航空機旅客に係る報告事項(PNR)の拡充 (→P.31, P.67, P.73)
WTO協定改正議定書(貿易円滑化協定)発効(→P.56)	2013 平成25年 通関関係書類の電子化・ペーパーレス化(→P.53)
訪日外国人旅客数が3000万人を突破 CPTPP発効(→P.54)	2014 平成26年 関税中央分析所がWCO地域税関分析所に認定(→P.104) 出港前報告制度導入(→P.31, P.73)
東京2020オリンピック開催式 (提供:東京都)	2015 平成27年 「指定薬物」を輸入してはならない貨物に追加
東京2020オリンピック・パラリンピック開催(→P.19) 日英EPA発効(→P.55)	2017 平成29年 「ストップ金密輸」緊急対策を策定(→P.46) 輸出入申告官署の自由化制度導入(→P.48)
新型コロナウイルス感染症(Covid-19)が世界的流行 (→P.114) 日米貿易協定発効 ラグビーワールドカップ 日本大会開催 日EU・EPA発効(→P.54) 国際観光旅客税導入	2018 平成30年 金の密輸に対応するための罰則の引上げ(→P.46)
RCEP協定発効(→P.54)	2019 令和元年 不正薬物の押収量が史上初の3トン超 成田空港に税関検査場電子申告ゲートを導入
2020 令和2年 スマート税関構想2020発表(→P.128) 主要空港に税関検査場電子申告ゲートを導入(→P.67)	2020 令和2年 不正薬物の押収量が史上初の3トン超 成田空港に税関検査場電子申告ゲートを導入
2021 令和3年 キャッシュレス納税環境を整備(→P.36)	2021 令和3年 スマート税関の実現に向けたアクションプラン2022発表(→P.129) 秋篠宮皇嗣同妃両殿下が横浜税関、東京税関を視察(→P.15)
2022 令和4年	2022 令和4年

世界最先端の税関を目指す
「スマート税関構想2020」

貿易の健全な発展、安全な社会、そして豊かな未来を実現する「世界最先端の税関」を目指すことを目的とした中長期ビジョンを令和2(2020)年に取りまとめ、スマート税関の実現に取り組んでいます。(→詳細は128ページ)

4つのキーワードの頭文字をとって「SMART」

Solution (利便向上策)
 貿易関係事業者や旅客等へ、税関手続におけるコンプライアンスや利便性の向上を図るためのソリューションを提供することにより、一層適正かつ迅速な通関を確保することを目指します。

Multiple-**A**ccess (多元連携)
 関係機関、貿易関係事業者等との情報連携を拡大・強化し、水際取締りの強化と貿易円滑化の両立を一層進展させることを目指します。

Resilience (強靭化)
 社会構造の変化や災害リスク等に備え、税関手続における利便性を確保しつつ、税関行政を持続・発展させていくことを目指します。

Technology & Talent (高度化と人材育成)
 税関業務にAI等先端技術を積極的に取り入れ、税関手続における新たな利便性の創造や一層の効果的・効率的かつ先進的な取締りの実現等、業務の高度化を目指します。
 また、人材育成、業務の見直し、更には職場環境の改善を目指します。

世界最先端の税関へ

2000年代に入ると、テロといった新たな脅威への対応が必要となり、また平成の後期になるとインバウンド需要が拡大、経済活動のグローバル化などにより越境電子商取引も拡大し、ヒト・モノの流れが増加していきました。税関は、このような中、安全・安心な社会の実現、適正かつ公平な関税等の徴収、貿易の円滑化を推進するため、先端技術を用いた取締・検査機器の導入、AEO(認定事業者)制度などの導入、通関手続の簡素化、デジタル化、国際協力の推進などに取り組んできました。税関は、明治5(1872)年の発足から令和4(2022)年までの150年間、時代の変化に対応しながら進化してきました。これからも貿易の健全な発展と安全な社会を実現することにより、国民一人ひとりの幸せを守ることができるよう、世界最先端の税関を目指していきます。



(写真左)平成16(2004)年には、税関研修所がWCO地域研修センターに認定されました。
 (写真右)平成26(2014)年には、関税中央分析所がWCO地域税関分析所に認定されました。

税関ロゴマーク



中央に航空機、船、ゲート(門)を組み合わせ、「関」の字を表しています。ゲート(門)の中の秤は公平を、鍵は保全を意味し、税関の役割を図で表現するとともに、3つの桜が税関の使命(安全・安心な社会の実現、適正かつ公平な関税等の徴収、貿易の円滑化)を示しています。



←税関ホームページへ



財務省は、急増する金地金の密輸に対応するため、平成29(2017)年に「ストップ金密輸」緊急対策を策定しました。その翌年には、金の密輸入に対する罰則を大幅に引き上げました。

「ストップ金密輸」緊急対策



不正薬物の取締り
 令和元(2019)年、不正薬物押収量が史上初めて3トンを超えました。(写真)令和元(2019)年12月、東シナ海において洋上取引された覚醒剤約587kgを熊本県天草市魚貴町の港において摘発。

不正薬物押収量が史上初の3トン超え

知的財産侵害物品の取締り

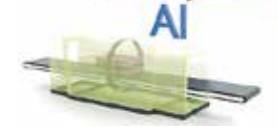
平成26(2014)年、知的財産侵害物品の輸入差止件数が3万件を超え、過去最多となりました。

知的財産侵害物品の輸入差止件数が過去最多



税関検査場電子申告ゲート

不正薬物の反応あり!



X線CT装置
 X線CT装置によるAI及び物質識別を活用した不正薬物検知の調査・研究を実施。

スマート税関構想



税関では税関ホームページや各種SNSを活用した情報発信を行っています。税関の取組をわかりやすく紹介しているほか、採用情報・イベント周知・税関クイズなど、様々な情報を配信しています。

